



4年 行方真太郎君



『火はこわい』

※色ぬりがむずかしかった。バックの黒をたいらにぬるのは、とても大変だった。



1年 あやせ 齊藤綾瀬さん



『消防車』

※消防車がむずかしかったです。クレヨンで水や煙の色を出すのに苦労しました。



あつまれ みんなの力作



火事の時 備えがあって



『備えがあって役に立つ』

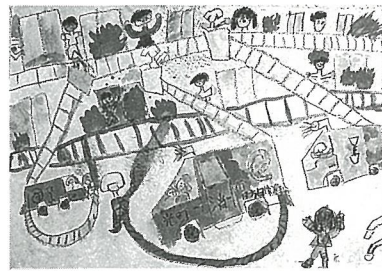


5年 森 優子さん

※色あいを考えたり、バックをむらがないようにぬるのが大変だった。



2年 たくや 石井琢也君



『こわい火事』

※火事でおどろいてる人のようすや、炎と水しぶきの色などをくふうしました。



6年 土屋 誠君



『火事の原因』

※火災の原因をわかりやすく大きくかきました。色の組み合わせを工夫しました。



3年 ゆうき 川島祐希君



『ちよつとした小さな火から 大きな火事』

※ぼくが防火ホスターを書く時一番たいへんだったのは、バックでした。



ひかり歌壇



鈴木甲子幸 (白磯)

千年の歴史もりこむパンフレット

稿書きあげて炬燵温とし

思はず御苦勞様の言葉が出ます。

結句でほっとしました。

伊藤 定男 (尾垂)

豊年の兆と聞けり春の雪

雫となりてリズム奏でる

下旬に春の喜びがこめられました。

越川 福子 (宮内)

荒々しき木肌ゆ直に吹き出たる

梅の蕾の白ささわ立つ

観察の視線がゆき届いているに敬服いたしました。

土屋 好 (虫生)

独り居の友の好物焼き芋を

肌に温めて路地を急ぎぬ

日常の事ながら句々に遊びがなくよく活写されて優しい心情が表現されました。

短評 竹内 紀葉

茜色に映ゆる西空澄み渡り 眉月浮ける清浄の宵

評者誌

「眉月、眉のような月、新月」